

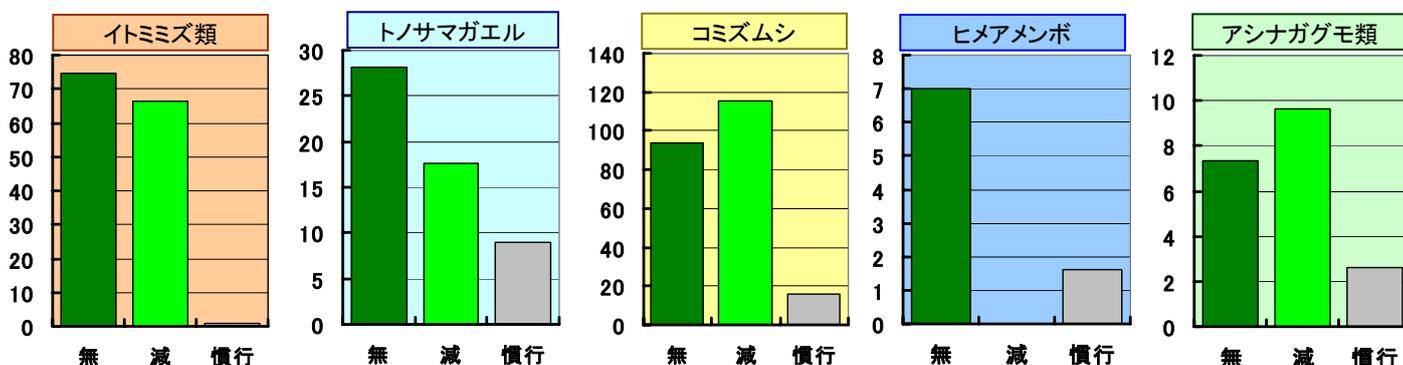
環境保全型農業の取り組みの効果を指標生物で確認する： 兵庫県 の例

○背景・ねらい：

兵庫県北部の平地から中間地では、自然放鳥されたコウノトリの定着を目指して有機・無農薬栽培、減農薬栽培の環境保全型農業「コウノトリ育む農法」に取り組んでいる。広域で「コウノトリ育む農法」に取り組み、また「農地・水・環境保全向上対策」を実践している地区で、選抜した指標生物を用いて、環境保全型農業の取り組みの効果を確認する。

○研究の成果：

- (1) 「コウノトリ育む農法」実施地区内の無農薬圃場(3筆)、減農薬圃場(3筆)および慣行圃場(3筆)で調査した。
- (2) ベントスではイトミミズ類、カエル類ではトノサマガエル、水生生物ではコミズムシ、ヒメアメンボ、ゴマフガムシ幼虫・成虫、ゲンゴロウ科数種の幼虫・成虫、払い落としではヤサガタアシナガグモ、すくい取りではアジアイトトンボが慣行圃場より数多く確認された。



無農薬、減農薬および慣行圃場で確認された各生物の頭数(2009年)。調査方法は種類によって異なる。

○活用方法：

環境保全型農業である「コウノトリ育む農法」に取り組むことでこれら指標種が増加する

「多様な生きものを育む」ことを目標とした「コウノトリ育む農法」が実践されていることの具体的な証左

安全・安心を目指した「コウノトリ育む農法」でのブランドの取得

これらの指標生物種を維持していくための今後の取り組み継続のための目標

取り組み効果の指標生物種の一例

